

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	西川寿美
教務主任名	近藤 彩

200 字以内

今期の総評

社会人を対象として始めた 1 年制コースの初年度の評価である。やや厳しいコメントも見られた。開講科目数、授業内容、図書館に関する評価が低めであった。オンライン受講の学生が多かったため院生室、学内施設に関する評価が低い点については、回答が難しかった結果であると判断した。学生の個々の背景やニーズに合わせて指導に反映していく面と入学時の個別面接で明確に示しておくべき点があると考えられる。専攻会議で報告、検討し、23 年度の専攻での取り組みに反映させたい。

200 字以内

改善のための方策

科目内容・方法に関するコメントは可能な範囲で 2 年目のコース運営・科目指導に生かしていきたい。図書館に関する評価については、学生の認識不足の点もあるためガイダンス時に周知させるようにする。購入希望のあった図書については順次申請していく。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻 1 年制
専攻主任名	野口朋隆
教務主任名	鶴岡明美

200 字以内

今期の総評

1 年制コースが開始されて初めての後期であったが、前期に引き続き試行錯誤の学期であった。従来からの制度では対応できない、もしくは新しい対応が必要という状況が多く、改善や修正に大きな時間が取られた。1 年制コースについて、特にアーキビスト養成プログラムは、一名が諸事情により修了の延期となったものの、その他は大きな混乱もなく修了することができた。大学院生の熱意のもと専攻内の諸先生方の協力もあり今期を終えることができた。

200 字以内

改善のための方策

必修・選択に関するシラバスの書き方について指摘があったので見やすさを工夫していきたい。授業内で ZOOM がつながらなかったという意見があった。1 年制コースは遠隔地で授業を受ける院生もいるため、接続を含めた IT 環境に関しては今後とも配慮していきたい。修士論文の指導については授業内で行うことが原則であるものの、社会人学生へも対応した指導の仕方や授業時間の設定を行っていくことで対応していきたい。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻
専攻主任名	粕谷美砂子
教務主任名	高橋学

200 字以内

今期の総評
1 年制は、アンケート全体の回答率が 50%程度で、回答者が特定のゼミおよびコースで偏りのある傾向がある。また、2 年制は、回答者が少なく、ほぼすべての質問項目が 5 の評価である。1 年制及び 2 年制ともに各質問項目とも専攻平均値を上回る。 1 年制コースでは、社会人入学者のニーズが、授業内容において、双方性を重視するもの、知識習得型を希望するもの、理論重視型、実践力重視型など多様である。カリキュラムの増設による 7 限の必要性、専門図書の充実、入学前の事前教育の必要など課題がある。

改善のための方策
1 年制、2 年制ともに F D アンケートの回収率を高めることが重要である。 1 年制は専門職大学院に移行するにあたって、上記の課題を改善するために以下の方策を実施する。また、下記の方策を 2 年制の院生も享受できるように考える ① 講義科目の増設と 7 限の活用②履修段階による授業内容の理論と実践の可視化③図書館による専門書の充実④入学前事前学習の奨励⑤専門的実践力を考慮したゲストスピーカーの導入⑥課題研究方法に関する講義科目の開設と必修化⑦実務家教員の増員

200 字以内

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	野口朋隆
教務主任名	鶴岡明美

200 字以内

今期の総評
2 年制は、これまでの学びに加え、1 年制コースの社会人大学院生とともに学ぶことで、新しい視点を身に付けていくことができたと考える。ただどうしても 1 年制コースの方が人数が多いため、全員が発表をする文化史例会などでも、従来とは異なるやり方で参加しなければならず、新しい対応が求められる場面もあった。しかし、大学院生の熱意のもと専攻内の諸先生方の協力もあり今期を終えることができた。

200 字以内

改善のための方策
全体的に高い評価を得たが、今後とも引き続き、熱意のある教育と高い研究を行うことで大学院生の満足度を高めていきたい。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	小西香苗
教務主任名	山中健太郎

200 字以内

今期の総評
すべての項目において全専攻平均よりも低く、全体的に改善の余地がある。特に改善の余地がある点は、院生室やその設備においてである。また、全体的に低い点数となった理由として、回答者 8 名中 2 名が全ての項目に総じて低い点数を付けていることが影響しており、個別相談などの対応が望まれる。総じて低い点数を付けた 2 名を除いた結果では、平均 4.2 点以上であり講義・演習を通じて専門的な力が付いたものと考えられる。

200 字以内

改善のための方策
院生室利用、コピー機・パソコン・プリンターなどの設備については、これまでも最も低い点数が付けられており、教育環境の整備が急務である。 また、将来の進路につながる発見や研究テーマの進捗などについての点数も比較的低く、学期中に 1 回以上の個人面談を行い、研究進捗や進路についての相談を行う体制を整える必要がある。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野 隆則
教務主任名	村山 憲男

200 字以内

今期の総評

当専攻への満足度は、概ね良好であった。
ただし、「研究室の諸活動や学会などへの参加」に関する項目が、これまでのアンケートと同様、最も低い値であった。前期のアンケート結果よりは改善されたものの、専攻内で可能な工夫は積極的に行い、来年度のアンケートでの改善を目指す。しかし一方で、専攻内だけでは予算的にも制度的にも限界があることも感じている。
また、自由記述では就職や実習記録に関係するニーズが散見された。

200 字以内

改善のための方策

「研究室の諸活動や学会…」については、日本心理学会や日本心理臨床学会への入会等を当専攻全院生に対して推奨していく。
就職については、例年 M2 を対象に生活心理研究所やキャリア支援課と連携して各自のキャリア形成に向けたサポートを行っているが、今後は M1 に対してもガイダンスや必修授業などで情報提供を行っていく。
実習記録については、個人情報保護の観点で限界はあるものの、可能な範囲でデジタル化を進めていく。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	下村久美子
教務主任名	番場美恵子

200 字以内

今期の総評
評価はおおむね 4 以上であったが、回答率がかなり低かった。

200 字以内

改善のための方策
アンケートの回答をするよう促す。なお、今期は院生へのヒアリングを行い、院生の学習環境などについて問題点を把握しできるだけ改善していく予定である。また、学習環境など支障のある際は都度申し出るよう促した。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	石井 正子
教務主任名	中村 徳子

200 字以内

今期の総評
9 名の院生が 100%回答し、しかもほぼすべての質問項目において高得点を得たことは大変喜ばしい。院生が充実した研究活動をおこない、修論作成に取り組んだ結果といえる。一方、平均点は超えたものの、得点が芳しくなかったのが「研究室の諸活動や学会などにどの程度参加しましたか」という項目であった。修論の指導のみならず、積極的に学会などに参加するよう促す必要があると思われる。また相変わらずコピー機・パソコン・プリンターなどの環境設備の満足度は低いので改善の必要がある。

200 字以内

改善のための方策
1 年次から学会に参加するよう促し、2 年次には修士論文の作成と並行して、学会等で研究テーマについて発表できるような指導を積極的にしていきたい。また研究室の学習環境については、来年度の予算を計上したので、新年度になり次第、プリンターとパソコンを新規購入することで設備を整えたい。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構研究専攻
専攻主任名	高尾 哲也
教務主任名	石井 正子

200 字以内

今期の総評
将来およびテーマの進捗以外の項目では 4 を越え、全体として高評であったと考えられる。図書館の蔵書に関して専門図書が少ないため充実を図って欲しい旨の要望があった。

200 字以内

改善のための方策
将来およびテーマの進捗、図書館の蔵書に関しては、研究分野や各々の学生により大きく異なっている事から指導教員との連携をより進める。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学専攻
専攻主任名	胡 秀敏
教務主任名	胡 秀敏

200 字以内

今期の総評

授業内容、学位論文作成などの研究指導ともに高い評価を得ており、総合的な満足度も高い水準を維持している。一方、学会への参加頻度、開設授業科目数への満足度は依然として 3 点台にとどまっている。院生室の環境、設備の改善を試みたが、根本的には解決されていないようである。

改善のための方策

授業科目数増設への要望については、次年度から近代文学の「特殊研究」を増設する予定である。院生室の環境、設備への要望に関しては、迅速に関係部署に報告し、さらなる改善策を求めていきたい。学会をはじめ研究活動に参加することの意義についてもさらに周知させたい。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑 由美
教務主任名	金子 弥生

200 字以内

今期の総評 「カリキュラム・授業」について、学生の高い満足度が示されている。一方、「院生」の部分では、研究室の諸活動や学会への参加が特に低く、それに伴ってか研究テーマの進展具合が比較的低い結果となった。 授業には熱心に参加するものの、研究テーマの進展につながるような学会及び研究室の活動への参加度が低い傾向が、前期に引き続き見受けられる。
--

200 字以内

改善のための方策 研究テーマが発展するよう、研究に関連する学会を紹介して参加を促す、また、在学生数が複数名となったため、例えば指導教員を囲んで読書会を開催する、という指導を検討していきたい。 図書館の文献・資料については、初めて高い満足度が得られた。今後も関係資料や文献を図書館に推薦していく。また、院生室を昨年春に整理した成果か、院生が利用しやすくなったようであり、今後も必要に応じて整備を行う。
--

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	西川寿美
教務主任名	近藤 彩

200 字以内

今期の総評
概ね良好な評価であった。回答率も良好であったが 100%ではなかった。院生室設備に関する評価と研究会・学会等への参加に関する自己評価が低めであった。例年と同様の傾向である。

200 字以内

改善のための方策
個別のコメントで指摘のあった院生室プリンターの老朽化への対応を検討する。学会活動への参加に対する評価がやや低い。春の学会等への積極的な参加を検討する。

2022 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	烏谷知子
教務主任名	鈴木博雄

200 字以内

今期の総評
回答率 100% (3 名回答) であった。大学院に対する総合的な満足度に対する評価 (4.67) は好調であった。回答率 100%とは言え、3 名の回答であるので、とりたてて、大きな問題点は指摘されていない。

200 字以内

改善のための方策
回答率 100%とは言え 3 名の回答であるので、マイナスのコメントは指摘されていない。